

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長兼救急診療センター長 兼高度脳損傷・脳卒中センター長	萩原 靖
部 長	出原 誠
医 長	下岡 直
医 長	石田 城丸
医 員	國井 繭子
医 員	佐々木 華子(9月退職)
非常勤医員	奥居 拓也
非常勤医員	大楠 景子(10月入職)

＜特色と概要＞

脳神経外科は脳神経内科と協力し、脳神経疾患全体の専門的治療を提供し、泉州地域における中核病院として、脳神経外科高度診療、救急対応まで幅広く機能している。

2023年度のスタッフは、萩原靖主任部長兼救急診療センター長兼高度脳損傷・脳卒中センター長、出原誠脳神経外科部長、下岡直医長、石田城丸医長、國井繭子医師、佐々木華子医師、奥居拓也医師7名から始まり、9月に佐々木華子医師が退職、10月に大楠景子医師が入職になり、診療にあたった。

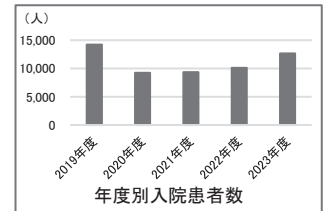
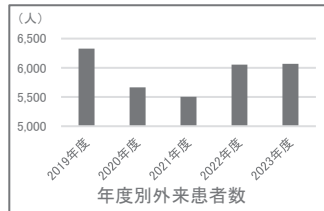
- ① 急性期脳卒中に対していつでも緊急開頭手術、脳血管内治療が行える体制をとっており、急性脳梗塞に対する血栓回収、血栓溶解療法も積極的に行っている。神経集中治療から急性期リハビリテーションも充実しており、集学的治療を行っている。
- ② 脳腫瘍に対する手術治療数も多く、最新のニューロナビゲーターを用いた安全で確実な外科的治療を提供している。放射線治療、化学療法などを併せた集学的治療も提供している。
- ③ 機能的手術では、治る認知症とされる正常圧水頭症に対する髄液短絡路造設術(シャント術)を積極的に導入している。またパーキンソン病に対する深部電極留置による刺激療法、拘縮に対する末梢神経手術、顔面・眼瞼痙攣に対するボトックス治療など行っている。

地域連携ネットワークの中で、脳卒中の手術、rt-PA治療や血栓回収療法のできる急性期病院として位置づけられ、さらに専門診療の向上に努めている。新臨床研修医の必修研修課目の一部である「脳血管障害」を担当しており、教育にも力を入れている。また、日本リハビリテーション医学会認定研修施設でもある。

＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	6,327	26.1	14,218	38.8
2020年度	5,664	23.3	9,237	25.3
2021年度	5,504	22.7	9,358	25.6
2022年度	6,053	24.9	10,112	27.7
2023年度	6,069	25.0	12,672	34.6



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

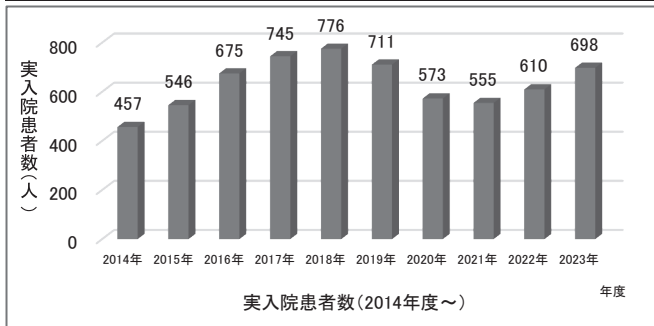
(期間2023/4/1-2024/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
脳梗塞, 詳細不明	I639	216
硬膜下出血(急性)(非外傷性)	I620	71
脳内出血, 詳細不明	I619	52
(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	I610	41
脳動脈瘤, 非<未>破裂性	I671	32
くも膜下出血, 詳細不明	I609	28
頸動脈の閉塞及び狭窄	I652	27
その他のてんかん	G408	16
脳動脈の血栓症による脳梗塞	I633	16
一過性脳虚血発作, 詳細不明	G459	15
水頭症, 詳細不明	G919	14
脳, 部位不明	D432	13
脳動脈の詳細不明の閉塞又は狭窄による脳梗塞	I635	13
外傷性硬膜下出血	S065	13
正常圧水頭症	G912	12
小脳の脳内出血	I614	10
脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物<腫瘍>	C793	9
その他及び詳細不明のけいれん<痙攣>	R568	9
脳動脈の血栓症による脳梗塞	I634	8
頸動脈サイフォン及び頸動脈分岐部からのくも膜下出血	I600	7
その他の脳梗塞	I638	7
椎骨動脈の動脈瘤及び解離	I726	7
脳幹の脳内出血	I613	5
脳内出血, 脳室内	I615	5
中大脳動脈の閉塞及び狭窄	I660	5
頸動脈瘤及び解離	I720	5
頭部及び頸部の一部の後天性欠損	Z900	5
脳, 部位不明	C719	4
パーキンソン<Parkinson>病	G20	4
脳神経	D433	3
頭蓋内膿瘍及び肉芽腫	G060	3
硬膜外及び硬膜下膿瘍, 詳細不明	G062	3
その他の明示された脳血管疾患	I678	3
硬膜外出血	S0640	3
髄膜, 部位不明	D329	2
下垂体	D352	2
脳, テント下	D431	2
てんかん, 詳細不明	G409	2
中大脳動脈からのくも膜下出血	I601	2
椎骨動脈からのくも膜下出血	I605	2
その他の頭蓋内動脈からのくも膜下出血	I606	2
その他の脳実質外動脈(脳底動脈, 頸動脈, 椎骨動脈を含む)の動脈瘤及び解離	I725	2
動静脈瘻, 後天性	I770	2
肺炎, 詳細不明	J189	2

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
脳血管の動静脈奇形	Q282	2
頭蓋及び顔面骨のその他の明示された先天奇形	Q758	2
頭皮の表在損傷	S000	2
頭皮の開放創	S010	2
外傷性くも膜下出血	S066	2

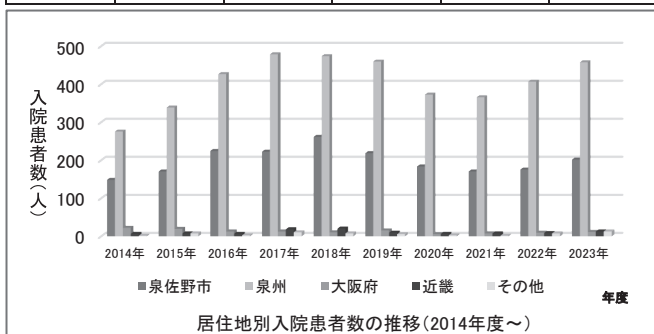
実入院患者数

年度	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
実入院患者数	457	546	675	745	776	711	573	555	610	698



居住地別入院患者数の推移

	泉佐野	泉州	大阪府	近畿	その他
2014年	149	276	23	7	2
2015年	171	339	20	8	8
2016年	225	427	13	7	3
2017年	223	479	13	19	11
2018年	262	474	11	21	8
2019年	219	460	16	10	6
2020年	184	373	6	7	3
2021年	171	366	8	8	2
2022年	176	407	10	9	8
2023年	202	458	12	13	13



手術実績

りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターを併せた総件数は415件で、泉州地域の脳神経救急診療の中核病院として機能している。

その他

- ① 日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設
- ② 日本脳卒中学会研修教育施設
- ③ 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- ④ 日本臓器学会認定指導施設
- ⑤ 大阪府がん診療拠点病院

<今年度の反省と来年度への抱負>

血管内治療、頭部外傷治療等で府下有数の症例数を達成している。

一方で医師不足は解決しておらず、個々の医師への負担は増加傾向にある。若手医師の臨床研修を強化し、技

術指導を徹底する事により、臨床医としての能力向上を目指す事でこうしたマンパワー不足に対応している。

医療圏最大の急性期病院として脳卒中、頭部外傷治療の中心としての役割を果たしていくことを変わらぬ目標としている。長年にわたって医療圏の脳神経診療のセンターとしての機能を果たしており、今後その存在意義と責任はさらに大きくなっていくと考えている。